

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	心理測定法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	二年次		学期及び曜時限	後期 火曜4限 他	教室名	405教室
担 当 教 員	小林 雅人	実務経験と その関連資格	大学および大学院で心理学を専攻(修士課程修了)			
《授業科目における学習内容》						
目に見えないある特性や感覚の量などを測定するための考え方や方法論について、古典的な実験を題材にしながらレポート作成を通じて理解を深める。データ処理の基礎となるテスト理論、尺度水準や多変量解析の基礎についても学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
心理実験レポート3本(各10点)、筆記試験(70点)の合計点で評価する。 ※レポートの未提出が1本でもある場合には、筆記試験はその素点によらず0点とするので注意すること。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
講義は配付資料をもとに進める。 【教科書】「心理測定法への招待」 サイエンス社 【参考文献】「言語聴覚士のための心理学」 医学書院						
《授業外における学習方法》						
前半は実験準備と実験レポート作成を授業外学習とする。 後半は授業後の復習に重点を置く。						
《履修に当たっての留意点》						
本科目では心理学における厳粛な実験手続きに習熟するため実験への取り組みを非常に重視する。実験に必要なものを忘れる・実験準備が著しく不十分だと教員が判断した場合は出席上の扱いは欠課とする場合があるので事前準備は入念に行うこと。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	極限法の手続きと特徴を理解し、説明できる。		教科書、配付資料	実験の内容を再度確認し、当日実験ができるように必要な物品、教示文など入念に準備しておく。
		各コマにおける授業予定	精神物理学的測定法 導入 ①極限法 概要と実験準備			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	極限法を理解し、厳粛な手続きに沿って実験ができる。		教科書、配付資料 実験要項 事前準備シート	内観報告、振り返りシートを記入しておく。
		各コマにおける授業予定	①極限法 実験 「皮膚感覚の二点弁別閾」			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	極限法で得たデータの処理方法を理解し、実行できる。		教科書、参考文献	授業後、実験レポートを作成し、期限を守って提出する。
		各コマにおける授業予定	①極限法 実験後のデータ処理 心理学実験レポートの体裁と書き方			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	極限法の長所と短所を説明できる。 調整法の手続きと特徴を理解し、説明できる。		教科書、参考文献	実験の内容を再度確認し、当日実験ができるように必要な物品、教示文など入念に準備しておく。
		各コマにおける授業予定	①極限法 まとめ 、 レポートのフィードバック ②調整法 概要と実験準備			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	調整法を理解し、厳粛な手続きに沿って実験ができる。		教科書、配付資料 実験要項 事前準備シート	内観報告、振り返りシートを記入しておく。
		各コマにおける授業予定	②調整法 実験 「ミュラー・リヤーの錯視」			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	調整法で得たデータの処理方法を理解し、実行できる。	教科書、参考文献	フィードバックで気付いたことや学んだことを踏まえて、授業後、実験レポートを作成し、期日を守って提出する。
		各コマにおける授業予定	②調整法 実験後のデータ処理		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	調整法の長所と短所を説明できる。 恒常法の手続きと特徴を理解し、説明できる。	教科書、配付資料 実験要項 事前準備シート	実験の内容を再度確認し、当日実験ができるように必要な物品、教示文など入念に準備しておく。
		各コマにおける授業予定	②調整法 まとめ、レポートのフィードバック ③恒常法 概要と実験準備		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	恒常法を理解し、厳粛な手続きに沿って実験ができる。	教科書、参考文献	内観報告、振り返りシートを記入しておく。
		各コマにおける授業予定	③恒常法 実験「重さの二点弁別閾」		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	恒常法で得たデータの処理方法を理解し、実行できる。	教科書、参考文献	授業後、実験レポートを作成し、期限を守って提出する。
		各コマにおける授業予定	③恒常法 実験後データ処理		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	恒常法の長所と短所を説明できる。	教科書、参考文献	フィードバックで気付いたことや学んだことを踏まえて、実験レポートを引き続き作成し、期日を守って提出する。
		各コマにおける授業予定	③恒常法 まとめ、レポートのフィードバック		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ME法の特徴および長所と短所を説明できる。 信号検出理論の概要を説明できる。	教科書、参考文献	教科書第9章を参考にして配付資料で示した内容を中心に復習する。
		各コマにおける授業予定	精神物理学的測定法 補足 ・その他関連事項(ME法、信号検出理論など)		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	信頼性と妥当性の下位分類を列举し、それらの概要を説明できる。	教科書、参考文献	教科書第7章、第8章を参考にして配付資料で示した内容を中心に復習する。
		各コマにおける授業予定	古典的テスト理論と信頼性・妥当性 スティーブンスの尺度水準 尺度構成法		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	主たる多変量解析を列举し、それらの概要を説明できる。	教科書、参考文献	教科書第8章を参考にして配付資料で示した内容を中心に復習する。
		各コマにおける授業予定	多変量解析①		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	主たる多変量解析を列举し、それらの概要を説明できる。	教科書、参考文献	教科書第8章を参考にして配付資料で示した内容を中心に復習する。
		各コマにおける授業予定	多変量解析②		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	本科目の重要概念、キーワードを説明できる。	教科書、参考文献	「まとめプリント」の内容を中心に復習する。
		各コマにおける授業予定	本科目のまとめ 国家試験過去問題演習		